

イギリス

- インタビュー日
 - 2009年11月23日-24日
- ヒアリング先
 - United Kingdom Accreditation Service(UKAS)
 - Lloyd's Register Quality Assurance (LRQA)
 - Department for Environment, Food and Rural Affairs (Defra)
 - Department of Energy & Climate Change (DECC)
- 概要
 - 2008年10月にPAS2050, Code of practiceを発行。PAS2050には、宣言の範囲、適合性評価のタイプ(認証[第三者認証], 自己妥当性確認)等が示されている。カーボントラスト社のプログラムによるラベルをWalkers社、Tesco社等が実施、している。
- 近況
 - UKASが、PAS2050及びCode of Good practiceを検証する認証機関の認定基準および認証基準など、ISO14065を適用したガイダンスを作成している。どの程度のassuranceレベルが必要か、を明確にするのが会合・プロジェクトの目的である。
 - 【参加機関】
 - BRE Global Ltd
 - BUREAU VERITAS Certification UK Ltd
 - Carbon Label Company
 - Complete Integrated Certification Services
 - Lloyd's Register Quality Assurance Ltd (LRQA)
 - SGS United Kingdom Ltd
 - ガイダンスの発行は2010年3月頃を目途としている。ガイダンスタイトル(仮)は、Issued for the purpose of the UKAS pilot assessment programme for accreditation for verification to PAS2050 or PAS2050 and the code of good practice
 - ガイダンス策定目的は、ISO14065を補完するものである。特に、PAS2050を認証する機関の認定を定める。ISO14065 のどの部分をどう解釈・適用するべきか、認証機関の要求事項を示す。
 - ガイダンスは、ISO14065やISO/IECガイド65をnormativeとするが、PAS2050の検証に適切かどうか、検討していく。PAS2050の検証に必ずしも適用可能でないものも明確にする。

【要求事項について】

①検証の目的

- 現時点では、イギリスのスキームは同種製品を時系列で比較しどの程度削減したかを評価するのが目的であり、製品間の比較可能性確保は困難である。

②検証者の能力

- 14066導入も検討する可能性あり。現在は考慮していない。
- GHGコンピタンスの方がLCAのコンピタンスより重要と考える。GHG源の特定の能力の方が求められる。また、LCA expertという表現は、定義が困難なため、避けたい。
- 個人でもチームでも、検証に足る能力を備えていればよい。
- DBの使用が推奨される。

③検証プロセス

- 検証ステージは1)イニシアルチェック(リスク分析等)を行い、2)詳細データの検証、という方法があるが、まだ十分議論されていない。プロジェクト(14064-2)の規格を適用することも可能であろう(特に使用ステージ)。

【マテリアリティについて】

- 検証の中で、PAS2050の方法と異なる方法のデータ収集や計算があるかもしれない。その際はjustificationが許されるべきである。すべて、マテリアリティを考慮しながら、チェックする。したがって、解釈の柔軟性については、90%以上、エキスパートもしくはプロ判断によっても仕方ないであろう。

【Assuranceのレベルについて】

- ライフサイクルの全てのデータを検証するのは難しい。データ収集方法や管理方法等その一貫性でassuranceのレベルを確保する。データパックやデータベースが推奨される。不確かさ、代表性、一貫性など審査し、データの収集システムを保証することでassuranceを維持する。

【表示について】

- 議論はまだ十分なされていない。ISO14025で定められている「検証の証明」の書式は、データに対する責任問題の観点から望ましくない。表示の検証は別で考えたい。また検証した後にみつけた齟齬などに対する取決めはISO14025にはない。